



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

「時間を感じる！」

私たち教師は、いろんな機会を生かし、生徒と積極的に関わることが大切になります。そのためには、生徒から声をかけられやすい雰囲気をもつことは大事です。また一方で、積極的に声をかけていくことも求められます。もちろんやみくもに声をかけるわけではありません。ちょっとした変化を感じて、問題を抱えている生徒に対して声をかけます。



私は、クラス等でいじめ問題を取り上げる時、いじめが起こってからではなく、先手的に、いじめがないような雰囲気の時に、「このクラスは、なぜいじめがないのか？」と問いかけ、話し合わせていました。そして、最終的に「学習ルール」「生活ルール」「対人ルール」の3つのルールをみんなで契約します。これをやるのは、だいたい5月末から6月の間に行います。4月に契約した「クラスのルール・マナー」の再契約という位置付けになります。

同じような発想で、遅刻常習生徒には、「遅刻しなかった日」に面談をするようにしていました。通常、遅刻した日に呼び出し面談を行いますが、だいたい「すいませんでした。気をつけます」で終わりがちです。生徒もどうせ怒られるから、早く済ませたい気持ちでしょう。そこで、遅刻しなかった日に、「なぜ遅刻しなかったのか？」という問いで、生徒と一緒に前日のことを振り返ります。

振り返りをすると、時間感覚がある生徒と、時間感覚がない生徒に出会います。時間感覚がある生徒に対しては、帰宅してからの行動計画を立てることができます。

ところが、時間感覚がない生徒は、「何時に寝た？」という質問に、「わからない」「うーん2時か3時」みたいな感じです。そんな生徒には、生活ノートを作り、「起きた時刻」と「寝た時刻」を記入させます。それを意識させるだけでも遅刻が改善されることがありました。加えて、「夕食の時間」や「好きなことをした時間」を書かせるようにします。その生徒の家庭環境やその生徒が興味をもっていることの話が聞けることがあります。雑談につながるので、登校しぶりの生徒には、とても効果がありました。

このことからわかるように、時間感覚がある・なしで、支援のやり方も変わります。

私は、それでも時間感覚を持つことはとても重要と考えていたので、**【時間を感じる！】**という言葉を用いた場面を発信していました。すると生徒・教師は、自分の、自分たちの意識向上にこの言葉を活用するようになりました。

この**【時間を感じる！】**という言葉は、生徒・教師共に、いろいろな受け止めがありました。例えば・・・

- ◆ 部活動の練習で、メニューを切り替えて、次の準備に取りかかる時、みんなで、**【時間を感じる！】**と声を掛け合いながらキビキビと取りかかった。
- ◆ 小さい頃からピアノをしてきた生徒が、その積み重ねを自信にするために、**【時間を感じる！】**と自分に言い聞かせていた。
- ◆ 修学旅行のタイムスケジュールを守る際は、学年全員の合言葉が**【時間を感じる！】**になっていた。
- ◆ 3年生になって、受験に向かう気持ちを高めるために、**【時間を感じる！】**という言葉が学年主任が廊下に貼っていた。
- ◆ サッカー部の生徒が、**【時間を感じる！】**という言葉意識して練習したら、一つ一つのプレースピードが上がったと言っていた。

このように、モチベーションアップに活用したり、これまでの自分を振り返ったり、集団のルール遵守の掛け声にしたりしていました。

みなさんも**【時間を感じる！】**という言葉を使ってみませんか